

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学
名前 醍醐 身奈
作成日 2025.02.27

【責任】

総合教養センターに所属し、専門科目である教育社会学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は、教職関連科目(生徒・進路指導の理論と方法、教師論、特別活動及び総合的な学習の指導法、教育の思想・歴史及び教育課程など)の担当、「キャリアデザイン1・2」などの授業を通じた学生のキャリア支援、ゼミ生の研究支援である。

また、教職センター長として、教職課程の運営や統括などを行っている。

【理念】

現代は、VUCA[※]の時代と言われ、これまで以上に未来の予測が難しく、複雑な社会となることが予想される。次世代を逞しく生き抜くためには、様々な状況下でそれぞれが直面する課題と向き合い、それを他者と協働しながら解決する方法や手段、そして能力を身につけていることが求められている。

こうした次世代のニーズに対応できるような資質・能力の育成を目指し、学生に対して以下の3つの理念を掲げながら、教育活動を行っていくものとする。

1. 次時代の社会ニーズ(協働しながら課題解決を図る)に対応できる資質・能力の育成
2. ICTを利活用し、様々な立場や環境下で生かせるアカデミックスキルの修得
3. 教員に求められる資質・能力の向上を図り、活躍できる教育者の育成(教職課程)

※Volatility (変動性)・Uncertainty (不確実性)・Complexity (複雑性)・Ambiguity (曖昧性)

【方針・方法】

＜方針＞

上記の3つの理念を実現するために、以下に示す3つの方針を掲げる。また、その方針を具現化するための方法を構想し、それに従って教育活動を行うものとする。

方針1：学内外問わず、協働して学ぶことで様々な社会課題に対する関心を高め、その解決に向けて新たな価値や具体的な方策を生み出せる学修機会をつくる。

方針2：ICTを活用しながら探究を深めることを通じて、大学生に必要なアカデミックスキルを身につけ、それを実社会で生かせるようにする。

方針3：教員に求められる基本的な知識・スキルを学んだ上で、それらを学校現場での授業や生徒指導などで実践的に活用できるようにする。(教職課程)

＜方法＞

上記の3つの方針を実現するための具体的な方法について、以下に示すものとする。

方針1：学内外問わず、協働して学ぶことで様々な社会課題に対する関心を高め、その解決に向けて新たな価値や具体的な方策を生み出せる学修機会をつくる。

方法①：学内外で自己が学んだことや課題として捉えたことについてプレゼンする機会を増やし、自分の考えや意見を他者に対して的確に伝える力を養っている。

方法②：日常生活や実社会の問題に着目し、その課題解決に向けて他者と協働して学ぶ授業内容を、積極的に取り入れている。

方針 2：ICT を活用しながら探究を深めることを通じて、大学生に必要なアカデミックスキルを身につけ、それを実社会で生かせるようにする。

方法①：授業では、Google Classroom や Teams などの ICT を利活用しながら、様々な情報収集の仕方や他者とのコミュニケーションの取り方などを学ばせている。

方法②：探究活動を通して自ら課題を設定し、先行研究の調査、アンケートの実施、分析、文章の書き方にいたるまで、論文作成や実社会で求められるアカデミックスキルを身につけることができるよう、授業内容を工夫している。

方針 3：教員に求められる基本的な知識・スキルを学んだ上で、それらを学校現場での授業や生徒指導などで実践的に活用できるようにする。(教職課程)

方法①：指導案の作成や模擬授業を通して、学校現場での指導に必要な知識やスキルを学び、教員としての資質・能力を実践的に高めるようにしている。

方法②：動画を視聴しながら、指導上の場面が具体的にイメージしやすいように、授業内容や教材の工夫を行っている。

【成果・評価】

- 4 年生のゼミ生全員が、卒業論文(または活動報告書)用のアンケートを作成し、調査完了した(2024 年秋)。
- ゼミ生が執筆した卒業論文から第 43 回松本武雄賞を 2 名(学術委員長賞、奨励賞)受賞することができた。
- 2024 年度秋学期の授業評価アンケートで、授業満足度で高い評価を得た。
- 2024 年度教職課程に在籍している 4 年生全員が教育実習を完了し、教員免許状を取得することができた。

【目標】

- (短) 2025 年春学期の授業評価で、高い授業満足度をマークする。(2025 年 8 月)
- (短) 研究成果を書籍にして発表する。(2026 年 12 月)
- (長) フィールドワークの場を国内外に拡大する。
- (長) これまで実践してきた出前授業の実践事例を研修資料として作成する。
- (長) 学生に対してこれまで以上に個別最適な学び・協働的な学びが提供できるように、学習内容の工夫や教材の開発を行う。
(ICT を利活用し、コミュニケーションツールを積極的に使った授業を実施)
- (長) 自己が開発した探究学習のカリキュラム及び教材をより多くの学校現場に提供し、フィードバックを受けながら開発・改良を進める。